

令和8年度 第2回 釧路市地域公共交通活性化協議会

施策（案）の具体化について

開催日時：令和8年7月17日（金） 14:00～

開催場所：KKSコンベンションセンター3階研修室

1. 次期計画の基本方針に対応する施策や取組

次期計画に基づく施策を推進するための具体的な取組は次のとおりである。
次ページでは、取組を検討するためのベースとなるこれまでの実施状況や専門部会等で示された検討課題、期待される効果を示す。

次期計画の基本方針		対応する施策（案）	主な今後の取組 ※赤字:再編事業として実施 ※青字:要協議事項	実施主体
1	必要な公共交通サービスレベルの確保と、路線バスの運行効率化による適正な公共交通サービスへの再編	①運行効率化による適正なバス路線網への再編(ゾーンバス化)〔継続〕 ②乗継拠点(待合施設)の整備〔継続〕 ③鉄道の減便・廃駅も考慮したバス運行の充実〔継続〕	◆再編事業として再編の実施・新たな乗継拠点検討・ダイヤ見直し ◆市立釧路総合病院における乗換拠点の整備検討	交通事業者 行政
2	公共交通の乗継抵抗を軽減する利用環境整備による乗継交通利用者の確保	④わかりやすいホームページやバスマップへの更新〔継続〕 ⑤乗継接続性の確保・乗継案内の充実〔継続〕 ⑥バスシェルターの整備〔継続〕 ⑦使いやすくわかりやすい運賃体系の構築〔要協議〕 ⑧乗継に対応したキャッシュレス決済導入・更新〔要協議〕 ⑨バスロケーションシステムの改善〔要協議〕 ⑩地元商店街等と連携したバス待合環境の整備〔要協議〕	◆公共交通マップの更新 ◆乗継拠点のモビリティハブ化等 ◆バスシェルターの整備 ◆運賃体系の構築 ◆WAON更新・他IC導入検討 ◆SNS等を活用した情報発信の取組 ◆バスロケーションシステムの改善 ◆バス待合環境整備	交通事業者 地元商店街 企業 行政
3	地域の「足」を守る地方部の公共交通手段の確保	⑪公共交通の担い手確保に向けた施策支援【新規】 ⑫地方部の交通事業者の事業継続支援【新規】	◆バス運転体験・就職相談会開催支援 ◆再編事業として運行路線の効率化	交通事業者 行政
4	公共交通の利用促進による公共交通利用者の確保	⑬モビリティ・マネジメント事業の実施〔継続〕 ⑭地域住民による公共交通のサポート〔継続〕 ⑮公共交通利用イベントの実施〔継続〕 ⑯高齢者の移動支援策の実施〔要協議〕 ⑰遅い時間帯のバス運行検討【新規】	◆エコ通勤の普及等 ◆（取組未定） ◆公共交通利用イベントの実施 ◆「高齢者外出促進バス事業」の継続 ◆末広町での乗合タクシーの実現検討	地域住民 大学 地元商店街 交通事業者 企業・行政
5	新たな輸送手段の導入による交通不便地域における生活交通の確保	⑱デマンド交通の導入検討〔継続〕 ⑲スクールバス、患者輸送バス等の活用検討〔継続〕 ⑳公共ライドシェアの導入検討【新規】	◆再編事業として生活交通の導入 ◆再編事業としてスクールバス等の活用 ◆公共ライドシェアの導入検討	交通事業者 行政

2. 施策(案)の具体化

基本方針1:必要な公共交通サービスレベルの確保と、路線バスの運行効率化による適正な公共交通サービスへの再編

施策(案)	現計画からの実施状況	検討課題 ◆前計画からの継続課題 ○住民アンケート結果から抽出した課題	今後の取組 ※赤字:再編事業として実施	期待される効果	実施主体
①運行効率化による適正なバス路線網への再編(ゾーンバス化)〔継続〕	○乗継拠点で郊外路線と接続するゾーンバス化（阿寒バス4路線のイオン釧路昭和店の起終点化） ○スーパーアークス鳥取大通店を乗換拠点とする、循環バス「ぐるっと」の運行を開始	◆必要な公共交通サービスレベルの維持・確保のためのバス事業者による取組 ◆最低限必要なバス路線を確保し、かつ運行効率化による適正なバス路線網への再編 ◆駅前拠点を中心とし、先の将来を見据えた街づくりも考慮した路線網の再編 ◆乗換拠点間を結ぶ路線の有効性も考慮したバス路線網の再編 ○通学利用便の利便性向上（大楽毛線（高専、鶴野支援学校）の混雑解消、高校生の通学にダイヤが合わない） ⇒増便対策済みのため、現状の推移を見た上で今後の対応を検討する。	◆再編事業として実施	◆バス車両や運転手の効率的な活用が期待され、乗換拠点を中心とする住宅街等の域内交通エリアを補完するバス路線の維持・充実が可能となる。 ◆目的地まで短い経路で到達できるため、所要時間の短縮など、バス交通の利便性向上が期待できる。 ◆効率的に拠点間をつなぐバス路線網の整備により、全体の運行本数の維持等が可能となる。	交通事業者 行政
②乗継拠点(待合施設)の整備〔継続〕	○イオン昭和店内の待合施設整備 ○スーパーアークス鳥取大通店内の待合施設整備 ○コープさっぽろ桜ヶ岡店内の待合施設整備	◆運転手不足の中での効果的な乗継拠点の最適配置	◆市立釧路総合病院における乗換拠点の整備検討 ◆再編事業として新たな乗継拠点検討 ◆バスドライバーの休憩施設整備	◆バス交通相互の乗換えがスムーズになることが期待できる。 ◆乗換拠点に人が集まることにより、地域の活性化が期待できる。	交通事業者 行政
③鉄道の減便・廃駅も考慮したバス運行の充実〔継続〕		◆バス交通相互の接続性のみではなく、広域的な移動手段である鉄道との接続性も踏まえたバス運行時刻の設定を考慮する。	◆再編事業としてダイヤ見直し	◆広域的な移動を行う際、スムーズな乗換えを行うことが可能となり、バス交通の利便性向上による利用の推進が期待できる。	交通事業者 行政

2. 施策(案)の具体化

基本方針2:公共交通の乗継抵抗を軽減する利用環境整備による乗継交通利用者の確保

施策(案)	現計画からの実施状況	検討課題	今後の取組	期待される効果	実施主体
		◆前計画からの継続課題 ○住民アンケート結果から抽出した課題 □事業者ヒアリング結果から抽出した課題	※赤字:再編事業として実施 ※青字:要協議事項		
④わかりやすいホームページやバスマップへの更新〔継続〕	○公共交通マップの更新（令和4年10月）		◆公共交通マップの更新（最新の路線バス網に基づき更新）	◆自家用車から公共交通への積極的な利用転換が期待できる。	交通事業者 行政
⑤乗継接続性の確保・乗継案内の充実〔継続〕	○交通拠点（コープさっぽろ桜ヶ岡店、スーパーアークス鳥取大通店、イオン昭和店）内において、運行状況等が分かるモニター等を設置した情報案内を実施	◆バスの乗換拠点だけではなくモビリティハブとしての機能も考慮した乗継拠点整備 ◆利用者目線での情報発信（緊急時、災害時、悪天候時）の取組検討	◆再編事業として、連絡の待ち時間をなるべく短くするダイヤの設定 ◆乗換拠点に複数の交通手段の乗換機能を持たせる「モビリティハブ化」 ◆SNS等を活用した情報発信の取組	◆自家用車から公共交通への積極的な利用転換が期待できる。	交通事業者 行政
⑥バスシェルターの整備〔継続〕	○14箇所にてバスシェルターを設置（令和8年2月時点）		◆バスシェルターの整備	◆バス交通の利便性向上につながり、バス交通の利用促進が期待できる。	交通事業者 企業・行政
⑦使いやすくわかりやすい運賃体系の構築〔要協議〕	○バスの乗換が必要となる際に、新たな初乗り運賃が発生しないよう、1便目で乗車券（200円）を配布して2便目で差額を徴収する運用としている ○くしろバス及び阿寒バスによる路線バス1日フリー乗車券の拡充など、円滑な運賃支払い方法の推進	□ゾーンバスによる乗継利用は、ある系統を単独で乗車した場合の運賃と、乗り継いだ場合の通し運賃など、料金体系が複雑になるため、膨大な運賃設定や車内運賃表のデジタル表示への反映ができるかなどの課題がある。	◆バス路線相互の連絡によって新たな初乗り運賃の支払いを生じさせない運賃体系の構築 ⇒当面は従来の方で実施	◆運賃の支払いが円滑になり、バス利用にかかるストレスの低減による利用者の安定化が期待される。	交通事業者 行政
⑧乗継に対応したキャッシュレス決済導入・更新〔要協議〕	○路線バスにおける電子マネーWAON決済の導入（平成30年5月～順次対象路線を拡大） ⇒すべての路線バスでWAON対応済み。現在の乗客のWAON利用者は約15%	○WAONは、チャージできる場所が少ない。Osuicaやkitakaなどを使いたい。 □WAONは、初期費用は補助金で賄ったが、更新費は事業者負担となる可能性がある。	◆WAON決済の更新 ◆他のIC導入を検討 ⇒他のIC導入に関しては、他地域の動向なども見つつ導入を検討	◆運賃の支払いが円滑になり、バス利用にかかるストレスの低減による利用者の安定化が期待される	交通事業者 行政
⑨バスロケーションシステムの改善〔要協議〕	○運行状況をリアルタイムで把握できる「PINA」と、最適なバスルートを検索できる「MOKUIKU」の2つのアプリケーションを提供開始	○データの読み込みに時間がかかり欲しい情報にたどり着きにくい。 ○確認したいバスの情報が無い事がある。	◆バスロケーションシステムの改善 ⇒課題に対応した更新を実施	◆待ち時間の有効活用その他、待ち時間のストレス軽減につながることが期待できる。	交通事業者 行政
⑩地元商店街等と連携したバス待合環境の整備〔要協議〕	○バス停「鳥取分岐」におけるバス待合環境整備		◆バス待合環境整備（具体的な整備箇所未定）	◆バス交通の利便性向上につながり、バス交通の利用促進が期待できる。	交通事業者 地元商店街 企業・行政

2. 施策(案)の具体化

基本方針3:地域の「足」を守る地方部の公共交通手段の確保

施策(案)	現計画からの実施状況	検討課題	今後の取組	期待される効果	実施主体
		□事業者ヒアリング結果から抽出した課題	※赤字:再編事業として実施 ※青字:要協議事項		
⑪公共交通の担い手確保に向けた施策支援【新規】	【参考となる取組】 ○自社の運転者養成制度による大型二種免許の取得支援 ○運転免許試験場において、バス運転体験・就職相談会を開催 ○乗務員の知り合いへの声掛けによる運転手採用 ○自衛官向け運転体験会・就職説明会を開催（釧路運輸支局・北見運輸支局・自衛隊帯広地方協力本部共催） ○公共交通乗務員確保対策助成金制度を確立（美幌町、釧路町）	□路線バスドライバーの高齢化が進んでおり、数年後のドライバー不足による更なる減便が懸念される。 □ドライバーの待遇面が厳しく、自主的なバスドライバー求職者は無いに等しい状況である。	◆バス運転体験・就職相談会の開催支援 ◆再編事業として、再編後のバス路線網においてもドライバーにとって無理のないダイヤの設定	◆定期的なバス運転体験・就職相談会の開催により、安定的なドライバーの確保が期待できる。 ◆ドライバーの待遇改善による安定的な求職者の確保が期待できる。	交通事業者 行政
⑫地方部の交通事業者の事業継続支援【新規】	○スクールバス運行（阿寒地区、音別地区） ○デマンド型乗合タクシー運行（桂恋・三津浦地区、阿寒地区） ○デマンドバス運行（音別地区） ○日本版ライドシェアの実施（阿寒湖温泉地区）	□売上の多くを市からの委託料が占めており、タクシー事業だけでは成り立たなくなっている。 □利用者が少ない路線、ニーズに合わない路線があり、路線見直し・統合など、事業の効率化が考えられる。	◆再編事業として、運行路線の効率化の実施 ◆再編事業として、バス路線のデマンド化による効率化推進	◆運行路線効率化による、運行支出の削減と利用推進による売上増加が期待できる。 ◆市からの委託事業化により、短期的な乗降客の減少に影響を受けにくい体制が構築される。	交通事業者 行政

2. 施策(案)の具体化

基本方針4:公共交通の利用促進による公共交通利用者の確保

施策(案)	現計画からの実施状況	検討課題 ◆前計画からの継続課題 ○住民アンケート結果から抽出した課題	今後の取組 ※青字:要協議事項	期待される効果	実施主体
⑬モビリティ・マネジメント事業の実施〔継続〕	○小学校等におけるバス交通に関する出前講座の開催 ○転入者や来訪者へのバス交通に関する情報提供 ○エコ通勤の普及		◆小学校等における出前講座の開催 ◆転入者や来訪者へバス交通情報提供 ◆エコ通勤の普及	◆市民のバス交通の利用意識の向上につながるとともに、バスを利用する際の心理的なハードルを下げる事が期待できる。	交通事業者 企業 行政
⑭地域住民による公共交通のサポート〔継続〕	○地域住民を中心としたバス停環境の改善 ○地域住民が主体となった公共交通の利用を推進、支援する取組み（バスの利用推進パンフレットの作成） ○市内大学と連携したバス停環境の整備 ○地元商店街等と連携したバス交通利用増加の取組（バス利用者への商店街スタンプラリーなど）		◆（取組未定）	◆バス停環境の維持・向上につながるとともに、バス交通の利用増加、地元商店街等の活性化に寄与することが期待できる。	地域住民 大学 地元商店街 交通事業者 行政
⑮公共交通利用イベントの実施〔継続〕	○バスおでかけプロジェクトの実施（R7実績） ○バスふれあいイベントの実施（R5実績等）	◆普段バスを利用していない人への利用促進の取組み検討（路線バスの利用促進イベントの開催他）。	◆公共交通利用イベントの実施	◆市民や来訪者のバス交通の利用意識の向上につながるとともに、バスを利用する際の抵抗の軽減が期待できる。	交通事業者 行政
⑯高齢者の移動支援策の実施〔要協議〕	○生活交通等での高齢者のおでかけを支援するため、「高齢者外出促進バス事業」制度を実施	○路線バスの本数が少ない地区の高齢者には、タクシーのチケットを支給してほしい。	◆現行の「高齢者外出促進バス事業」の継続	◆高齢者の社会参加の促進と、自動車運転免許の返納促進による交通事故リスクの低下が期待できる。	交通事業者 行政
⑰遅い時間帯のバス運行検討【新規】	—	○遅い時間帯の増便要望（飲食店のある地域、大学の部活終わりの帰宅便、特急おおぞら到着後の帰宅便など） ◆運転手を増やすことが難しい中、遅い時間帯の公共交通機関として、ライドシェアなどの方法も含めた対処の検討 ⇒遅い時間帯での公共交通確保に向けて、末広町での乗合タクシーの実現を検討（仕組みづくり、料金体系、担い手のマッチングなど）。	◆末広町での乗合タクシーの実現検討	◆市民のバス交通の利用意識の向上および利用促進が期待できる。	交通事業者 行政

2. 施策(案)の具体化

基本方針5:新たな輸送手段の導入による交通不便地域における生活交通の確保

施策(案)	現計画からの実施状況	検討課題 ○住民アンケート結果から抽出した課題 □事業者ヒアリング結果から抽出した課題	今後の取組 ※赤字:再編事業として実施	期待される効果	実施主体
⑱デマンド交通の導入検討〔継続〕	○相乗りタクシー（桂恋三津浦線）の運行を令和2年9月より実施 ○音別地区コミュニティバスの運行を令和元年より実施 ○あいのりタクシー（仁々志別線）の運行を平成23年より実施 ○布伏内（阿寒）のりあいタクシーの運行を平成22年より実施	○他の地区にも行けるようになれば良い。 ○利用できる便が少ない。	◆再編事業として、路線バスに替わる生活交通の導入を検討	◆交通不便地域の改善につながる他、域内移動の利便性向上につながることを期待される。	交通事業者 行政
⑲スクールバス、患者輸送バス等の活用検討〔継続〕			◆再編事業として、スクールバス、患者輸送バス等の活用検討	◆既存車両を活用することで、少ない経費で交通不便地域の改善を図ることができる。	交通事業者 行政
⑳公共ライドシェアの導入検討【新規】		□地方のタクシー事業者ではドライバーの高齢化が進んでいるが、若い人の採用は困難な状況であり、運転手が退職した場合の補充が困難である。	◆再編事業として、路線バスに替わる生活交通の導入を検討。対象エリアのタクシー事業者のドライバー確保が厳しい場合には、公共ライドシェアの導入を検討	◆交通不便地域の改善につながる他、域内移動の利便性向上につながることを期待される。	交通事業者 行政

3. 今後の実施方針

- 今後の取組の選定に向けて、各事業主体に対し「実施内容」や「スケジュール」等についてヒアリングを実施する。
- ヒアリング対象団体および対応する施策は、下表のとおりである。

【ヒアリング対象団体(案)】

ヒアリング対象団体	対応する施策（案）・取組
交通事業者 〔くしろバス(株)・(株)阿寒バス〕	⑦使いやすくわかりやすい運賃体系の構築（運賃体系の構築） ⑧乗継に対応したキャッシュレス決済導入・更新（WAON決済の更新、他のIC導入を検討） ⑨バスロケーションシステムの改善（SNS等を活用した情報発信の取組、バスロケーションシステムの改善） ⑪公共交通の担い手確保に向けた施策支援（バス運転体験・就職相談会開催支援）
交通事業者 〔釧根地区ハイヤー協会〕	⑪遅い時間帯のバス運行検討（末広町での乗合タクシーの実現検討）
地元商店街・地域住民 〔釧路市連合町内会 ・釧路市女性団体連絡協議会 ・バスから釧路の街を考える会 ・市民団体「クスろ」など〕	⑨バスロケーションシステムの改善（SNS等を活用した情報発信の取組、バスロケーションシステムの改善） ⑩地元商店会等と連携したバス待合環境の整備（バス待合環境整備） ⑭地域住民による公共交通のサポート（バス停周辺や待合施設の清掃など、地域内のバス停環境の改善、公共交通のP R、支援等の取組み）
企業 〔釧路商工会議所など〕	⑩地元商店会等と連携したバス待合環境の整備（バス待合環境整備） ⑬モビリティ・マネジメント事業の実施（エコ通勤の普及等）
大学 〔釧路公立大学 ・北海道教育大学釧路校〕	⑨バスロケーションシステムの改善（SNS等を活用した情報発信の取組、バスロケーションシステムの改善） ⑬モビリティ・マネジメント事業の実施（バス交通に関するイベントの開催等） ⑭地域住民による公共交通のサポート（バス停や車両のデザインの検討、バス停におけるベンチの設置）